

## 学生による2005（平成17）年度授業評価の結果報告

石塚 睦子, 峰村 淳子, 大堀 昇, 山本 君子, 守屋みゆき,  
成田みゆき, 井口佳志子, 黒坂 知子\*, 板橋 和子\*, 井澤 和代

key words : 自己点検, 自己評価, 授業評価

### I. はじめに

1996（平成8）年に公布され1997（平成9）年から施行された看護基礎教育カリキュラムに基づく本校のカリキュラムの運用および教育内容の概要について、本校では紀要<sup>1)2)</sup>で報告した。その後、このカリキュラムの実施結果等についての評価およびそれに基づく調整は、従来から実施している定期的なカリキュラム検討委員会や講師会等で実施し、カリキュラムの効果的運営のための取り組みをしてきた。

2002（平成14）年3月には、専修学校設置基準が改正され、大学・短大では既に義務化されている教育活動の自己点検・自己評価が、専修学校においても努力義務化されることになり、厚生労働省からは「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」が提示された。

本校もこれらの動向を踏襲し、2004（平成16）年4月から、教師を中心に“自己点検・自己評価”に関する学習・検討を開始した。まず、自己点検・自己評価の概念・目的・必要性などを確認し、認識を統一することから始め、授業評価を実施することを前提にその評価表の検討に入った。

各教師で授業評価表に関する文献<sup>3)~8)</sup>による情報収集を行い、主に東京都立看護学校評価委員会作成の「授業評価表」の枠組みや評価項目を参考に、本校の授業評価用紙の試案を決定した。この用紙を用いてプレテスト等を行い、本校の授業評価表を完成させた。本報告書をまとめるに当たっては該当の委員会に了解を得ている。

この授業評価表を用いて、2005（平成17）年度にす

べての授業科目の授業評価を実施した。調査結果は、教師および学生の両方の集計を行ったが、教師と学生を単純に比較するのは困難であり、また学生の評価が教師の評価より相対的に高かったことから、今回は学生の評価を分析・考察したので報告する。

尚、2004（平成16）年10月には、学校組織としての『自己点検・評価委員会』が発足し、学校としての質の向上のための取り組みもスタートしている（本紀要参照）。

### II. 『自己点検・評価委員会』並びに『カリキュラム検討委員会』における授業評価の検討経過

授業評価を実施するまでの『自己点検・評価委員会』並びに『カリキュラム検討委員会』の検討経過は、表1に示した通りである。

### III. 授業評価表の実際

学生による授業評価は、講義・演習用（表2）、校内実習用（表3）、臨地実習用（表4）からなる。教師による授業評価表については、資料として最後に添付する（資料1～3）。

授業評価表の質問項目である「III 自由設問欄」は、各科目責任教師により質問したい項目がある場合追加する欄とした。

基礎・専門基礎・専門分野までの全科目に関する、授業評価結果は表5の書式で整理した。

#### 1. 方法

##### 1) 対象

##### (1) 講義・演習

学生：1学年（第42回生）84名、2学年（第

表1 『自己点検・評価委員会』並びに『カリキュラム検討委員会』の検討経過

年	月	活 動	会議等	内 容
2004(平成16)	3~4	自己点検・評価に関する学習	教員会議	・自己点検・評価の概念, 目的, 必要性の確認と意識の統一 ・本校の授業評価表の作成について, 教員の合意を得る
	7	授業評価の検討	宿泊研修(3日間)	・授業評価表と実施要領の検討 参考文献3)~8)
	8	教師への調査		・教育活動等に関する自己評価の調査実施 参考文献5) 対象者数: 14名(調査時点の在籍専任教員全員)
	10	授業評価(臨地実習編)試案決定	教員会議	・授業評価表(講義・演習編, 校内実習編, 臨地実習編)と実施要領の試案決定
		自己点検・評価に関わる基礎データの既存資料の確認と準備	自己点検・評価委員会発足	・メンバー: 学校長, 教育業務委員会メンバー, 事務長, 事務員の7名 ・自己点検・評価に関わる基礎データの既存資料の確認と準備すべき資料の検討
	11	授業評価の検討 授業評価の科目の決定	教員会議	・授業評価表のレイアウト, 実施要領の検討 ・授業評価プレテストの科目の決定 対象科目: (講義) 情報科学, 社会福祉制度, 看護原論II, 成人看護学II (校内実習) 看護方法論I (臨地実習) 成人看護学実習I
12	プレテストの実施		・授業評価(10月試案)プレテスト実施 対象科目: (臨地実習) 成人看護学実習I	
2005(平成17)	1	自己点検・評価に関わる基礎データの既存資料の確認と準備	自己点検・評価委員会	・自己点検・評価に関わる基礎データ資料の検討
	2	プレテストの実施		・授業評価(10月試案)プレテスト実施 対象科目: (講義) 情報科学, 社会福祉制度, 看護原論II, 成人看護学II (校内実習) 看護方法論I
		授業評価表(本調査用)決定	教員研修(2日間)	・授業評価表(全科目)の検討, 決定
	3	プレテスト結果報告	臨地実習指導者会	・授業評価(成人看護学実習I)の結果報告
			講師会	・授業評価(全プレテスト科目)の結果報告
	6	自己点検・評価計画の決定	自己点検・評価委員会	・「東京医科大学看護専門学校の自己点検・評価」—III. 教育課程, IV. 教授・学習・評価過程に関する計画—の決定
	7~9	本調査(全科目)の実施		・授業評価(前期科目)の実施
	9	本調査結果(全科目)の分析・公表の検討	カリキュラム検討委員会	・授業評価(全科目)の分析・公表に向けてスケジュール検討
	12	本調査(全科目)の実施		・授業評価(後期科目・通年科目)の実施
2006(平成18)	2			
	2	本調査結果の分析	カリキュラム検討委員会	・授業評価(全科目)の結果分析

- 41回生) 85名, 3学年(第40回生) 80名
- (2) 校内実習  
学生: 1学年(第42回生) 84名, 2学年(第41回生) 85名
- (3) 臨地実習  
学生: 1学年(第42回生) 84名, 2学年(第41回生) 85名, 3学年(第40回生) 80名

- 2) 調査方法および期間  
調査方法は, 無記名の自記式質問紙法を用いた。配布方法は, 科目責任者が講義・演習, 校内実習, 臨地実習終了時に配布し, 記入後回収した。  
調査期間: 前期科目は2007年7月~9月  
後期科目は2005年12月~2006年2月

表2 学生による授業評価（講義・演習）

この調査は、本校の講義・演習における課題を明確にし、今後の改善および質の向上を目的としています。得られた結果は、集計・分析し公表する予定です。結果は集団として扱い、個人が特定されることもなく、成績評価にもまったく関係するものではありません。本調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願いします。

学年 科目名：  
科目責任教師：

評価日：200年 月 日

各質問に対して、あなたの思いに近い数字をひとつ選び、○をつけてください

質問項目	評価区分					
		5 とても 思う	4 そう 思う	3 普 通	2 思 わ な い	1 全 く 思 わ な い
<b>I あなた自身の授業への取り組み</b>						
1	この授業にはもともと関心があった	5	4	3	2	1
2	授業態度(出席、私語、いねわり、重要点のノートとりなど)はよかった	5	4	3	2	1
<b>II 授業準備・内容・方法に関する教師の取り組み</b>						
3	授業内容がシラバス(便覧内の授業計画)に沿っていた	5	4	3	2	1
4	開始・終了時間を守り、時間配分がよかった	5	4	3	2	1
5	授業内容はわかりやすく要所を押さえていた(順序性、系統立て、具象・抽象、重要点の強調)	5	4	3	2	1
6	教師の話し方はわかりやすかった(声の大きさ、速度、口調、専門用語の説明など)	5	4	3	2	1
7	学生の反応、理解度を確認し進んでいた(ノートをとる時間など)	5	4	3	2	1
8	学生の発言や質問に適切に対応していた	5	4	3	2	1
9	教師自身の意見や考えを適度に示していた	5	4	3	2	1
10	教材(黒板、視聴覚教材、テキスト、配布資料など)は適切(精選されていた、量、見やすさ)だった	5	4	3	2	1
11	言葉遣い・しぐさなどが学生を尊重した態度であった	5	4	3	2	1
12	学習意欲、興味・関心をそそり(学説の紹介、最新の情報、教師の経験談、事例など)知的刺激を受けた	5	4	3	2	1
13	今後の学習方法が理解できた	5	4	3	2	1
<b>III 総合評価</b>						
14	学習目標は達成できた	5	4	3	2	1
15	総合的に考えて満足のいく授業だった	5	4	3	2	1
<b>IV 自由設問欄</b>						
		5	4	3	2	1
		5	4	3	2	1
		5	4	3	2	1
<b>V 自由記載欄(感想・要望など自由に書いて下さい)</b>						

2005年3月作成

※ 学生における授業評価(講義・演習)は、「東京都立看護専門学校における学校評価」の枠組みおよび評価項目・評価区分を一部変更したものである。

3) 調査内容

(1) 講義・演習の質問項目

- ① 学生自身の授業への取り組み
- ② 授業準備・内容・方法に関する教師の取り組み

③ 総合評価

- (2) 校内実習の質問項目
  - ① 学生自身の授業への取り組み
  - ② 校内実習内容・方法について

表3 学生による授業評価(校内実習)

この調査は、本校の校内実習における課題を明確にし、今後の改善および質の向上を目的としています。得られた結果は、集計・分析し公表する予定です。結果は集団として扱い、個人が特定されることもなく、成績評価にもまったく関係するものではありません。本調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願いします。

\_\_\_\_ 学年

科目名: \_\_\_\_\_ 科目責任教師・担当教師: \_\_\_\_\_

評価日: 20 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

各質問に対して、あなたの思いに最も近い数字をひとつ選び、○をつけてください

質問項目	評価区分	そう思う	とても思う	普通	思わない	全く思わない
		5	4	3	2	1
<b>I あなた自身の授業への取り組み</b>						
1 事前学習を行なった。		5	4	3	2	1
2 役割意識をもって校内実習に取り組んだ(看護師役、患者役、観察者役)		5	4	3	2	1
3 グループメンバーに配慮しながら実施した。		5	4	3	2	1
4 学生間で検討しながら校内実習に取り組んだ。		5	4	3	2	1
5 テキスト・資料等で基本を確認しながら実施した。		5	4	3	2	1
<b>II 校内実習内容・方法について</b>						
6 講義で学んだ知識と校内実習の内容につながりがあった。		5	4	3	2	1
7 学習のねらいや目標は明確だった。		5	4	3	2	1
8 全体の時間配分は良かった。		5	4	3	2	1
9 何をどのように校内実習するかわかりやすい進め方だった。		5	4	3	2	1
10 使用した教材・教具(VTR、模型、器材など)は適切であった。		5	4	3	2	1
11 デモンストレーションは効果的だった。		5	4	3	2	1
12 教師は、看護技術と看護の目的・役割を結びつけ、意味づけした。		5	4	3	2	1
13 教師は、必要時適切な助言・指導をしていた。		5	4	3	2	1
14 教師は、学生が理解しやすい言葉や方法で指導した。		5	4	3	2	1
15 教師は、学生の主体性が発揮できる関わりをした。		5	4	3	2	1
16 教師は、学生のプライバシーに配慮した。		5	4	3	2	1
17 教師は、学生の考え方や行動を尊重した。		5	4	3	2	1
18 教師は、学生に問題意識をもてるような関わりをした。		5	4	3	2	1
19 教師間の指導の方向性が一致していた。		5	4	3	2	1
<b>III 校内実習全体について</b>						
20 この校内実習を終えてより良い援助のために、看護技術の学習意欲が高まった。		5	4	3	2	1
21 総合的に考えて満足いく校内実習だった。		5	4	3	2	1
<b>IV 自由設問欄</b>						
22		5	4	3	2	1
23		5	4	3	2	1
24		5	4	3	2	1
<b>V 自由記載欄(感想・要望など自由に書いて下さい)</b>						

2005年3月作成

※ 学生における授業評価(校内実習)は、「東京都立看護専門学校における学校評価」の枠組みおよび評価項目・評価区分を一部変更したものである。

表4 学生による授業評価(臨地実習)

この調査は、本校の実習における課題を明確にし、今後の改善および質の向上を目的としています。  
得られた結果は、集計・分析し公表する予定です。結果は集団として扱い、個人が特定されることもなく、成績評価にもまったく関係するものではありません。本調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願いします。

\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_ 回生

科目名: \_\_\_\_\_ 科目責任教師・担当教師: \_\_\_\_\_ 評価日: 20 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

各質問に対して、あなたの思いに近い数字をひとつ選び、○をつけてください

質問項目	評価区分	5	4	3	2	1
<b>I あなた自身の実習への取り組み</b>						
1 事前学習には、十分取り組んだ		5	4	3	2	1
2 対象(患者、家族)や医療チーム・教師との関係を築きながら実習を展開できた		5	4	3	2	1
3 日々の学習を振り返ると共に、既習の学習内容を活かした実習展開ができた		5	4	3	2	1
4 課題を持ち、自分を高める努力をした		5	4	3	2	1
5 グループメンバー間で協力しながら互いに高めあうことができた		5	4	3	2	1
6 実習中は、実習生としてのマナーを守り、適切な行動が取れた		5	4	3	2	1
<b>II 実習展開及び教師・指導者(指導に関わった教員以外のすべて)の取り組み</b>						
7 学内事前ガイダンスの内容は、実習を円滑に行うために役立った		5	4	3	2	1
8 施設でのオリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った		5	4	3	2	1
9 実習目標を達成するために必要な学習体験ができた		5	4	3	2	1
10 実習を進めるうえで、記録物・提出物は適切だった(課題内容・課題の量など)		5	4	3	2	1
11 実習中の学内学習は、実習に役立った		5	4	3	2	1
12 実習終了時の学内でのまとめの時間は効果的で意義があった		5	4	3	2	1
13 教師は、行動計画調整で適切な助言・指導をした		5	4	3	2	1
14 教師は、援助場面で患者・学生双方に配慮し適切な助言・指導をした		5	4	3	2	1
15 教師は、カンファレンスで学生の考え方や行動を尊重し適切な助言・指導をした		5	4	3	2	1
16 教師は、記録指導で学生の考え方や行動を尊重し適切な助言・指導をした		5	4	3	2	1
17 教師は学生が理解しやすい言葉や方法で指導し、また学生の考え方や行動を尊重した		5	4	3	2	1
18 教師の行動や態度から看護者としてのあり方を学べた		5	4	3	2	1
19 教師は精神的な支えになった(困っている時に助けてくれた、質問しやすかった…)		5	4	3	2	1
20 教師は、学生の実習が円滑に進むように、受け持ち患者や看護師長・主任・指導係・スタッフ・その他実習関係者と適宜連絡調整した		5	4	3	2	1
21 教師と指導係とは指導の方向性が一致していた		5	4	3	2	1
22 指導者は援助場面で適切な助言・指導をした		5	4	3	2	1
23 指導者は、カンファレンスで適切な助言・指導をした		5	4	3	2	1
24 指導者は、看護の考え方や学習の方向性について適切な助言・指導をした		5	4	3	2	1
25 指導者は、学生が理解しやすい言葉や方法で指導し、学生の考え方や行動を尊重した		5	4	3	2	1
26 指導者の行動や態度から看護者としてのあり方を学べた		5	4	3	2	1
27 指導者は、学生の実習が円滑に進むように、受け持ち患者や看護師長・主任・指導係・スタッフ・その他実習関係者と適宜連絡調整をした		5	4	3	2	1
<b>III 学習環境</b>						
28 実習に必要な物品は整備されていた		5	4	3	2	1
29 学生のための場所(記録する場所、カンファレンスの場所、私物置き場、休憩室など)は確保されていた		5	4	3	2	1
30 実習中に必要な文献や資料を見ることができた		5	4	3	2	1
31 実習施設・病棟は学生を受け入れてくれる雰囲気だった		5	4	3	2	1
<b>IV 総合評価</b>						
32 全体として充実した実習だった		5	4	3	2	1
<b>V 自由設問欄</b>						
33		5	4	3	2	1
34		5	4	3	2	1
35		5	4	3	2	1
<b>VI 自由記載欄(感想・要望など自由に書いて下さい)</b>						

※ no.11「学内学習」とno.22~27「指導者」については、科目毎に説明を加える。

2005年3月作成

※ no.14「援助場面」とは、患者様の介在のある場面をさす。

※ 学生における授業評価(臨地実習)は、「東京都立看護専門学校における授業評価」の枠組みおよび評価区分を一部使用したものである。質問項目については、I-1,6 II-11,12,13,21,24以外、全て「東京都立看護専門学校における授業評価の評価項目」を使用した。

表5 学生による授業評価結果一覧表

評価日: 年 月 日

年生 名 科目名:		科目責任教師・担当教師:							
質問項目	1	2	3	34	35	合計	counta	平均	自由記載欄
学生No.									
1						0	0	#DIV/0!	
2						0	0	#DIV/0!	
3						0	0	#DIV/0!	
4						0	0	#DIV/0!	
5						0	0	#DIV/0!	
6						0	0	#DIV/0!	
7						0	0	#DIV/0!	
8						0	0	#DIV/0!	
9						0	0	#DIV/0!	
10						0	0	#DIV/0!	
11						0	0	#DIV/0!	
12						0	0	#DIV/0!	
13						0	0	#DIV/0!	
14						0	0	#DIV/0!	
15						0	0	#DIV/0!	
16						0	0	#DIV/0!	
17						0	0	#DIV/0!	
18						0	0	#DIV/0!	
19						0	0	#DIV/0!	
20						0	0	#DIV/0!	
21						0	0	#DIV/0!	
22						0	0	#DIV/0!	
69						0	0	#DIV/0!	
70						0	0	#DIV/0!	
71						0	0	#DIV/0!	
72						0	0	#DIV/0!	
73						0	0	#DIV/0!	
74						0	0	#DIV/0!	
75						0	0	#DIV/0!	
76						0	0	#DIV/0!	
77						0	0	#DIV/0!	
78						0	0	#DIV/0!	
79						0	0	#DIV/0!	
80						0	0	#DIV/0!	
81						0	0	#DIV/0!	
82						0	0	#DIV/0!	
83						0	0	#DIV/0!	
84						0	0	#DIV/0!	
85						0	0	#DIV/0!	
86						0	0	#DIV/0!	
87						0	0	#DIV/0!	
合計	0	0	0	0	0	0	35	0.0	
COUNTA	0	0	0	0	0	0	87	87	
平均	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0.0	0.4	
全くそう思わない1点									
思わない2点									
普通3点									
そう思う4点									
とても思う5点									
合計									

※未記入と無効(ex.2つ以上に○をつけている、評点の数字の間に○をつけているなど)は空白とする。

- ③ 校内実習全体について
- (3) 臨地実習の質問項目
  - ① 学生自身の実習への取り組み
  - ② 実習展開及び教師・指導者（指導者に関わった教師以外のすべて）の取り組み
  - ③ 学習環境
  - ④ 総合評価
- 4) 分析方法

質問項目の回答形式は「とてもそう思う（5点）」「そう思う（4点）」「普通（3点）」「そう思わない（2点）」「全くそう思わない（1点）」の5評定とした。

分析は、単純集計とした。

5) 倫理的配慮

学生に対しては、無記名とし、評価表の提出は任意とした。この調査は本校の講義・演習、校内実習、臨地実習における課題を明確にし、今後の改善および質の向上を目的とすることを説明し、また結果は集団として取り扱い、個人が特定されることがないこと、成績評価には一切関係しないことを事前に説明し協力を得た。

IV. 授業評価結果

授業評価項目中の総合評価について、基礎・専門基礎・専門分野（看護学）の各科目別に報告する。総科目数は57科目で、回収率は科目により差が見られ、100～62.5%だった。

1. 基礎分野

基礎分野は、「専門基礎分野」および「専門分野（看護学）」の基礎として位置づける科目群である。基礎分野の全ての科目は、広い視野から総合的に見る能力を養い、人間形成の上にも大きな役割を占めるものである。人間の生活・環境を理解し、科学的思考力を高め、

国際化・情報化社会に対応できる能力を目指す学習内容を含み、学習の意義と方法についても学ぶ。

講義の科目数は11科目であるが、今回1科目のみ2名の講師別に結果を出したため、12科目となっている。学生による基礎分野の授業評価のうち、評価項目「総合的に考えて満足のいく授業だった」の最高点4.6点、最低点3.1点、平均 $3.88 \pm 0.45$  (SD) 点であった。平均値に関する科目間のばらつきは少なかった。

5段階評価各々の評価者数は、表6の通りであり、94%の学生が5段階評価で5～3と評価しており、6%の学生は2～1と評価していた。

学年別では、1学年の平均は4点、2学年と3学年は科目数が少なく4科目で平均は3.7点であった。学年によって大差はなかった。

2. 専門基礎分野

専門基礎分野は、「専門分野（看護学）」を支持する専門科目で構成される。

学習内容は、人間を系統立てて理解した上で、健康を含め人間を幅広く理解する内容とし、人間の価値、健康と保健医療、人間を取巻く社会について理解を深める内容とする。また、人間関係（援助関係）の発展や人々のセルフケア能力の向上に向けた教育的役割や調整的役割に関する内容についても学ぶ。

専門基礎科目の科目数は15科目であり、学生による専門基礎分野の授業評価の内、評価項目「総合的に考えて満足のいく授業だった」の最高点は4.6点、最低点は2.0点、平均点は $3.7 \pm 0.62$  (SD) 点であった。基礎分野や専門分野に比べてばらつきがあった。

5段階評価各々の評価者数は、表7の通りであり、90.3%の学生が5段階評価で5～3と評価しており、9.7%の学生は2～1と評価していた。

学年別では、1学年は10科目の平均は $3.69 \pm 0.74$

表6 学生による基礎分野の授業評価結果（5段階評価別評価者数）

質問項目	5段階評価	5	4	3	2	1
		とても そう思う	そう思う	普通	そう思わない	全くそう 思わない
総合的に考えて満足のいく授業だった		272 (31%)	274 (31%)	285 (32%)	40 (5%)	14 (1%)

※有効回答数 885 名

表7 学生による専門基礎分野の授業評価結果（5段階評価別評価者表）

質問項目	5段階評価	5	4	3	2	1
		とても そう思う	そう思う	普通	そう思わない	全くそう 思わない
総合的に考えて満足のいく授業だった		292 (27%)	345 (34.5%)	337 (31.3%)	57 (5.3%)	47 (4.4%)

※有効回答数 1078 名

(SD) 点, 2 学年 2 科目の平均は  $4.05 \pm 0.07$  (SD) 点, 3 学年 3 科目の平均は  $3.5 \pm 0.1$  (SD) 点であった。

専門基礎分野の平均点は 2, 1, 3 学年の順で高かった。

### 3. 専門分野

専門分野 (看護学) は, 「専門基礎分野」及び「専門分野 (看護学)」を基礎とした「看護学」として位置づける。学習内容は, 看護の概念 (看護の目的・役割・対象) と看護の方法の基本, 対象に応じた看護を学ぶ内容とする。

専門分野 (看護学) は, 「講義」「校内実習」「臨地実習」ともに高得点であり, 専門分野, 専門基礎分野に比べてもやや高い値を示した。

「講義」の科目数は 19 科目であり, 学生による専門基礎分野の授業評価の内, 評価項目「総合的に考えて満足のいく授業だった」の最高点 4.8 点, 最低点 3.2 点, 平均  $3.94 \pm 0.44$  (SD) 点であった。「校内実習」, 「臨地実習」に比べると科目間の得点にばらつきが見られた。学年別では, 1 年生は 6 科目受講しており, 平均  $4.1 \pm 0.39$  (SD) 点, 2 年生は 11 科目と最も多く, 平均  $3.8 \pm 0.47$  (SD) 点で, 1・3 年生に比べると得点のばらつきがみられた。3 年生は 2 科目で, 平均 4 点であった。5 段階評価各々の評価者数は, 表 8 の通りであり, 94.7% の学生が 5 段階評価で 5~3 と評価しており, 5.3% の学生は 2~1 と評価していた。

「校内実習」は 2 科目であり, 学生による専門基礎分

野の授業評価の内, 評価項目「総合的に考えて満足のいく授業だった」は 4.4 点, 4 点と高得点であり, 平均 4.2 点であった。学年別では, 1 年生 4 点, 2 年生 4.4 点であった。5 段階評価各々の評価者数は, 表 9 の通りであり, 99% の学生が 5 段階評価で 5~3 と評価しており, 1% の学生は 2~1 と評価していた。

「臨地実習」の科目数は 9 科目であり, 学生による専門基礎分野の授業評価の内, 評価項目「全体として充実した実習だった」の最高点 4.7 点, 最低点 4.4 点で, 平均  $4.5 \pm 0.11$  (SD) 点と非常に高得点であった。また科目間の得点差も少なく, 学年による差も見られなかった。5 段階評価各々の評価者数は, 表 10 の通りであり, 99% の学生が 5 段階評価で 5~3 と評価しており, 1% の学生は 2~1 と評価していた。

## V. 考 察

### 1. 基礎分野

「専門基礎分野」および「専門分野 (看護学)」の基礎として位置づけられている科目群「基礎分野」計 12 科目の学生による授業総合評価は, 科目別並びに学年別平均値のばらつきが少なく, 比較的高い評価を得られていた。5 段階評価各々の評価者数についても, 94% の学生が 5 段階評価で 5~3 と評価していた。

以上から, 大多数の学生は授業に満足していたと考える。その理由としては, 授業計画として学生に成文化し提示している学習のねらいや科目の位置づけ, 学

表 8 学生による専門分野「講義」の授業評価結果 (5 段階評価別評価者数)

質問項目	5 段階評価				
	5 とても そう思う	4 そう思う	3 普通	2 そう思わない	1 全くそう 思わない
総合的に考えて満足のいく授業だった	413 (28.5%)	594 (41%)	365 (25.2%)	69 (4.8%)	7 (0.5%)

※有効回答数 1448 名

表 9 学生による専門分野「校内実習」の授業評価結果 (5 段階評価別評価者数)

質問項目	5 段階評価				
	5 とても そう思う	4 そう思う	3 普通	2 そう思わない	1 全くそう 思わない
総合的に考えて満足のいく校内実習だった	72 (46%)	69 (44%)	15 (9%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)

※有効回答数 158 名

表 10 学生による専門分野「臨地実習」の授業評価結果 (5 段階評価別評価者数)

質問項目	5 段階評価				
	5 とても そう思う	4 そう思う	3 普通	2 そう思わない	1 全くそう 思わない
全体として充実した実習だった	432 (61%)	226 (32%)	39 (6%)	5 (0.7%)	2 (0.3%)

※有効回答数 704 名



生に対する教師の願いを各教師が意図的に示しつつ授業展開し、授業方法を工夫しながら学生に授業をする中で、学生たちの興味関心が触発・維持された結果と判断する。

但し、5段階評価で2~1と低く評価していた学生も6%みられていた。今後は、その理由を自由記載内容(今回結果からは省略している)や学生の生の声から情報収集することに努め、教師と調整をはかりながら、更なる授業の質の向上に役立てていきたい。

## 2. 専門基礎分野

「基礎分野」の学習を踏まえ、平行して「専門分野(看護学)」の学習を支持する専門基礎課目として位置づけられている科目群「専門基礎分野」15科目の科目では、2点台が2科目あったが、他科目は高得点であった。学生にとっての専門基礎分野は、文字通り馴染みのない「看護(学)に関する専門用語」と多く出合う科目である。生活体験の中で感覚的には知っていても、そのしくみや意味・内容については知らない事柄が多く学生の関心も高い。また教師も授業内容・方法を工夫し、学生の興味・関心を引き出すような授業を行っていることにより高得点が得られたと考える。

5段階評価で2~1と低く評価していた学生は、基礎分野よりやや多かった。専門基礎分野は基礎分野より更に専門性が増す分野の科目群であるため、今後、低得点科目と合わせて、自由記載内容の分析や学生の生の声の情報収集に努め、教師と調整を図りながら更なる授業内容の質の向上に役立てていきたい。

## 3. 専門分野

「講義」の科目数は19科目と多く、その内1年生では、6科目受講する。看護の概念(看護の目的・役割・対象)と看護の方法の基本を学習する。学生は、看護学校に入学し、看護について学習する動機付けが高くなっている。教師は、学生の意欲を損なわず、分かりやすく、興味・関心を引くような授業になるよう努力している。それらが4.1点と他学年よりやや高い得点になった要因と考える。また2年生では11科目と全体の6割近くを受講するが、1年生とは違い、各看護学の対象に応じた看護を学習する機会が多くなり、より専門的な知識が必要になる。そのため授業内容を難しいと感じる学生も多い。また教師も、専門的な内容を学生に分かりやすく、興味・関心を持たせながら教授することに苦慮している。これらが3.8点と高得点ではあるが、他に比べてやや低くなった要因ではないかと考える。また得点のばらつきがあることを考える

と、教師が授業内容や方法などについて、研究・研鑽を行い、さらなる授業内容の充実を図るよう、学校全体として取り組んでいく必要がある。

「校内実習」では、日常生活援助や注射・採血などの専門性の高い看護技術を学習する。学生の興味・関心も高いため、満足感も高くなっているものとする。

「臨地実習」は、看護学の中で満足感が最も高く、科目間、学年間で差がないことから、学生にとって効果的な実習が実施できていると考える。施設側の実習に対する理解も深く、実習中には専任の指導係も配置していただいている。教師も実習場において学生の指導に当たるが、教師と臨床との連携・協力体制が良くできていると考える。また学生は、そのような実習環境の中で実習を行い、対象への看護を通して、達成感や充実感を得ており、それらが満足感を高くしている要因と考える。今後も施設の協力を得ながら、さらに効果的な実習が実施できるよう調整していく必要がある。

## VI. おわりに

学生の授業評価は、全体的に比較的高い結果であった。しかし、少数ではあるが全体平均が低い科目や5段階評価で2~1と評価している学生がいた。そこで、自由記載の意見や学生の生の声を参考に教師一人一人が今後の教育活動に活かし、学校全体としても継続して教育の質の向上に向けて検討・改善していきたい。

また、今回は教師による授業評価結果との比較を行わなかったが、教師の自己評価の活用と学生の評価との比較が今後の課題である。なお、本校は、自己点検・自己評価を4年毎に実施していく予定である。

謝辞

授業評価にご協力頂いた学生に心より感謝致します。

最後になりましたが、このような評価を得られ、熱心に授業して下さった諸先生方に深くお礼申し上げます。

教師による授業評価(講義・演習)

資料1

この調査は、本校の講義・演習における今後の改善および質の向上を目的としています。得られた結果は、集計・分析し公表する予定です。結果は人事考課にまったく関係するものではありません。本調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願いします。

学年 科目名:  
科目責任教師:

評価日: 200 年 月 日

各質問に対して、あなたの思いに最も近い数字をひとつ選び、○をつけてください

質問項目	評価区分				
	5 とても 思う	4 そう 思う	3 普 通	2 思 わ な い	1 思 わ な く そ う
<b>I 授業準備・内容・方法に関する教師の取り組み</b>					
1 学習進度や関連科目、学生のレディネスを把握して授業準備にあたった	5	4	3	2	1
2 学習目標が達成できるようなシラバス(精選された情報の活用などによる授業計画)であった	5	4	3	2	1
3 授業内容がシラバスに沿っていた	5	4	3	2	1
4 開始・終了時間を守り、時間配分がよかった	5	4	3	2	1
5 授業内容はわかりやすく要所を押さえていた(順序性、系統立て、具象・抽象、重要点の強調)	5	4	3	2	1
6 話し方はわかりやすかった(声の大きさ、速度、口調、専門用語の説明など)	5	4	3	2	1
7 学生の反応、理解度を確認し進めていた(ノートをとる時間など)	5	4	3	2	1
8 効果的発問をしていた(内容、量、タイミングなど)	5	4	3	2	1
9 学生の発言や質問に適切に対応していた	5	4	3	2	1
10 教師自身の意見や考えを適度に示していた	5	4	3	2	1
11 教材(黒板、視聴覚教材、テキスト、配布資料など)は適切(精選されていた、量、見やすさ)だった	5	4	3	2	1
12 言葉遣いしぐさなどが学生を尊重した態度であった	5	4	3	2	1
13 学習意欲、興味・関心をそそり(学説の紹介、最新の情報、教師の経験談、事例など)知的刺激を与えた	5	4	3	2	1
14 今後の学習方法の理解を促した	5	4	3	2	1
<b>II 総合評価</b>					
15 学習目標は達成できた	5	4	3	2	1
16 総合的に考えて満足 of いく授業だった	5	4	3	2	1
17 授業の振り返りをし改善につなげている	5	4	3	2	1
<b>III 自由設問欄</b>					
	5	4	3	2	1
	5	4	3	2	1
	5	4	3	2	1
<b>IV 自由記載欄</b>					

2005年3月作成

※ 教師における授業評価(講義・演習)は、「東京都立看護専門学校における学校評価」の枠組みおよび評価項目・評価区分を一部変更したものである。

教師による授業評価(校内実習)

資料2

この調査は、本校の校内実習における今後の改善および質の向上を目的としています。得られた結果は、集計・分析し公表する予定です。結果は人事考課にまったく関係するものではありません。本調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願いします。

科目名: \_\_\_\_\_ 科目責任教師・担当教師: \_\_\_\_\_

評価日: 20\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

各質問に対して、あなたの思いに最も近い数字をひとつ選び、○をつけてください

質問項目	評価区分	とても 思う	そう 思う	普 通	思 わ な い	思 全 く な い
<b>I 校内実習の計画・準備</b>						
1	担当する看護技術に関する研究結果や最新の情報などの情報収集と検討を行った	5	4	3	2	1
2	看護技術の原理・原則を明確化し、臨床との関連も踏まえて教授内容・方法を検討し精選した	5	4	3	2	1
3	看護技術の倫理的側面・安全性を考慮し計画した	5	4	3	2	1
4	講義と関連させ、学習目標を明確にして校内実習を計画した	5	4	3	2	1
5	学生のレディネスを考慮し校内実習を計画した	5	4	3	2	1
6	目標・内容・指導方針などの共通認識が得られるように、協力教師と調整した	5	4	3	2	1
7	効果的な校内実習のために必要な物品・配置等の準備を行った	5	4	3	2	1
8	看護技術の学習方法の理解を促す内容を含めて計画した	5	4	3	2	1
<b>II 校内実習内容・方法</b>						
9	講義で学んだ知識と校内実習の内容を関連づけられた	5	4	3	2	1
10	校内実習全体の時間配分は、良かった	5	4	3	2	1
11	校内実習の進め方は、良かった	5	4	3	2	1
12	使用した教材・教具(板書、VTR、模型、器材など)は適切であった	5	4	3	2	1
13	まとめは、わかりやすかった	5	4	3	2	1
14	デモンストレーションは効果的であった(実施した場合) ・看護技術のポイントを押さえていた。・正確かつ質の高い看護技術を演じられた。 ・学生全員が見えるように工夫できていた。・学生が聞き取りやすい声の大きさ・早さ・口調であった。 ・複数教師の場合、連携しスムーズであった。・全体的に倫理的配慮があり安全な看護技術であった。	5	4	3	2	1
15	学生への倫理的配慮と安全性確保をして関わった	5	4	3	2	1
<b>III 総合評価</b>						
15	学習目標は達成できた	5	4	3	2	1
16	総合的に考えて満足いく授業だった	5	4	3	2	1
17	授業の振り返りをし改善につなげている	5	4	3	2	1
<b>IV 自由設問欄</b>						
18		5	4	3	2	1
19		5	4	3	2	1
20		5	4	3	2	1
<b>V 自由記載欄</b>						

2005年3月作成

※ 教師における授業評価(校内実習)は、「東京都立看護専門学校における学校評価」の枠組みおよび評価項目・評価区分を一部変更したものである。

教師による授業評価(臨地実習)

資料3

この調査は、本校の臨地実習における今後の改善および質の向上を目的としています。得られた結果は、集計分析し公表する予定です。結果は人事考課にまったく関係するものではありません。本調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願いします。

科目名: \_\_\_\_\_ 科目責任教師・担当教師: \_\_\_\_\_

評価日: 20年 月 日

各質問に対して、あなたの思いに最も近い数字をひとつ選び、○をつけてください

質問項目	評価区分	評価				
		5 とても 思う	4 そう 思う	3 普 通	2 思 わ な い	1 全 く 思 わ な い
<b>I 実習計画・準備及び導入</b>						
1	実習目標達成のための具体的な実習計画を立案し、指導係との調整を行った	5	4	3	2	1
2	実習目標・実習計画を学生・指導者・教師間に認識のズレがないよう提示、調整した	5	4	3	2	1
3	学生個々のレディネス、実習上の課題を考え、受持患者の選択及びその調整を行った	5	4	3	2	1
4	実習目標達成に向けて、学生が実習で学びたい内容と教師が学んで欲しい内容との確認を行った	5	4	3	2	1
5	実習中の学習が円滑に進むような全体ガイダンスができた(科目責任教師のみ)	5	4	3	2	1
6	実習中の学習が円滑に進むようなグループガイダンスができた	5	4	3	2	1
<b>II 学生への関わり</b>						
7	実習中の学習が円滑に進むような病棟オリエンテーションができた	5	4	3	2	1
8	実習中の学習の統合に繋がる学内日の指導ができた	5	4	3	2	1
9	学生の事前学習状況、患者や病棟の状況から、学生の行動計画が適切か判断し指導した	5	4	3	2	1
10	学生個々の学習状況とそれぞれの患者の状況から指導の優先度や指導の時期を決定した	5	4	3	2	1
11	援助場面では、患者・学生双方に配慮しつつ必要な助言や援助協力をした	5	4	3	2	1
12	患者の安全、学生の安全を意識しながら指導を行った	5	4	3	2	1
13	患者の状況や反応から学生では対応できないと判断したときは、患者・学生双方に配慮しつつ役割モデルを示した	5	4	3	2	1
14	記録指導を効果的に行った	5	4	3	2	1
15	学生の学習状況と受持患者の状況から適宜指導計画を修正し、翌日の課題を明確にした	5	4	3	2	1
16	学習方法のアドバイスをし、学習の積み重ねができるよう指導した	5	4	3	2	1
17	日々、実習時間内に実習が終了できるよう努力した	5	4	3	2	1
18	グループメンバー間で協力しながら実習が進められるよう指導した	5	4	3	2	1
19	カンファレンスでは学生の発言を活かし、学生間で学習が深められるような指導・助言を行った	5	4	3	2	1
20	学生が理解しやすい言葉や方法で指導した	5	4	3	2	1
21	学生の考え方や行動を尊重して関わった	5	4	3	2	1
22	学生の状況に目を配り、精神的支えになれるよう努力した	5	4	3	2	1
<b>III 実習中の関係者との連携・調整</b>						
23	学生の状況について、指導者と必要な内容の情報交換をした	5	4	3	2	1
24	学生の実習が円滑に進むように(学生の学習状況、患者の状況、指導者の業務量等)、受け持ち患者や看護師長・主任・指導係・その他実習関係者と適宜連絡・調整をした	5	4	3	2	1
<b>IV 総合評価</b>						
25	実習目標は達成できた	5	4	3	2	1
26	総合的に考えて満足のいく実習だった	5	4	3	2	1
27	実習の振り返りをし改善に続けている	5	4	3	2	1
<b>V 自由設問欄</b>						
28		5	4	3	2	1
29		5	4	3	2	1
30		5	4	3	2	1
<b>VI 自由記載欄</b>						

2005年3月作成

※ 教師における授業評価(臨地実習)は、「東京都立看護専門学校における授業評価」の枠組みおよび評価区分を一部使用したものである。質問項目については、I-6 II-8,14 IV-27以外、全て「東京都立看護専門学校における授業評価の評価項目」を使用した。

## 引用・参考文献

- 1) 石塚睦子, 黒坂知子他. 本校における科目の構成と教育内容. 東京医科大学看護専門学校紀要. **15**(1), 21-46, 2005.
- 2) 黒坂知子, 峰村淳子他. 改正カリキュラムに基づく本校のカリキュラムの考え方と教育内容. 東京医科大学看護専門学校紀要. **11**(1), 39-59, 2001.
- 3) 「都立看護専門学校における学校評価実施要領準則」の制定について. 15 健医人第 1720 号. 東京都医療政策部長. 2003.
- 4) 舟島なをみ, 杉森みどり. 看護学教育評価論: 東京, 文光堂, 2004.
- 5) 「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」報告書. 看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会. 2003.
- 6) 和賀徳子, 岩本郁子他. なぜいま, 看護学校で教育活動の自己評価が必要なのか. 看護展望. **28**(3), 82-92, 2004.
- 7) 岩本郁子, 長久泉他. 「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」の活用法. 看護展望. **29**(1), 101-109, 2004.
- 8) 丸山美和子, 和賀徳子他. 看護学校で教育活動の自己評価を行うにあたっての実際的課題. 看護展望. **29**(3), 96-101, 2004.
- 9) 社団法人日本看護協会編: 看護者の基本的責務. 日本看護協会出版会, 2003.
- 10) 看護問題研究会編: 保健師・助産師・看護師国家試験出題基準平成 15 年版. 医学書院, 2003.
- 11) 厚生労働省医政局看護課: 看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書. 2003.3/17 通知
- 12) 厚生労働省医政局看護課: 新たな看護のあり方に関する検討会報告書. 2003.3/24 通知
- 13) 厚生労働省医政局長: 「看護師等による静脈注射の実施について」. 2003.9/30 通知
- 14) 厚生労働省医政局看護課: 新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会報告書. 2004.3/10 通知
- 15) 系統看護学講座編集室編: 看護師国家試験出題基準クイックリファレンス「系統看護学講座」との対照. 医学書院, 2004.
- 16) 看護教育問題研究会: 看護教育自己評価指針看護教育必携資料集. メヂカルフレンド社, 2004.
- 17) 「看護教育」編集室 編: 基礎分野・専門基礎分野. No.4 カリキュラム案とその展開. 医学書院, 1996.
- 18) 佐藤みつ子他: 看護教育における授業設計 指導案作成の実際. 医学書院, 1993.
- 19) 看護教育問題研究会: 看護教育自己評価指針看護教育必携資料集. メヂカルフレンド社, 2004.
- 20) 看護教育学研究: 医学書院, 2002.

## 正誤表

以下の記載内容に誤りがありましたので、訂正をお願いします。

ページ	行	誤	正
1	(上から) 2行目	峰村 淳子, 石塚 睦子, 黒坂 知子*, 板橋 和子*	(訂正) 峰村 淳子, 石塚 睦子, 黒坂 知子*, 板橋 和子** (3行目に追加) 東京医科大学看護専門学校平成18年度自己点検・自己評価委員会(専任教員)
1	脚注	*東京医科大学看護専門学校平成18年度自己点検・自己評価委員会(専任教員)	(訂正) * 元東京医科大学看護専門学校教務主任 **元東京医科大学看護専門学校専任教員
7	(上から) 3行目	成田みゆき, 井口佳志子, 黒坂 知子*, 板橋 和子*, 井澤 和代	(訂正) 成田みゆき, 井口佳志子, 黒坂 知子*, 板橋 和子**, 井澤 和代 (4行目に追加) 東京医科大学看護専門学校 2005・6年度カリキュラム検討委員会
7	脚注	*東京医科大学看護専門学校2005・6年度カリキュラム検討委員会	(訂正) * 元東京医科大学看護専門学校教務主任 **元東京医科大学看護専門学校専任教員